

修正し、第3回子ども専門部会に提出する 第1回子ども専門部会のまとめ

【凡例】◎：既に取り組んでいる ○：取り組む予定である
△：検討中 ✕：取り組む予定はない、または終了

・「子ども分野」の記述が少ない。
（現在の基本構想）

・足立区のいい所を伸ばしていくべき。
・未来に向けた視点が必要。

・これまでは、ワーストを改善する施策が多かった。

・人の力、人の良さを生かす足立区

【ひとり親家庭へのサポート】

- ・ひとり親家庭も経済的に住みやすくすべき。◎
- ・就学援助が他自治体より多い。ひとり親も増加。（就学援助が多いことに対して✕）
- ・ひとり親家庭をどのようにサポートすべきか。

【中退者サポート】

- ・高校生の中退やニート、フリーターが多い。◎
- ・学歴志向だけでなく中退者も貢献できる人材として育てる。◎
- ・ニートとフリーターは別にとらえるべき。

【多様な進路・居場所】

- ・若い世代が自立し、活躍でき、居場所があることが重要。◎
- ・高校生世代にどのようなサポートができるか。✕
- ・「職人のまち」など中退者も活躍できる基盤づくりが必要。

【職業教育】

- ・進学以外の多様な進路を伝える職業教育が重要。◎
- ・子供たちにやる気を持たせる。

【貧困】

- ・社会、区全体の底上げが必要。◎
- ・北東部の都営住宅には低所得の外国人が多く、学力水準が低下している。◎
- ・小1への貧困アンケート。◎
- ・子供の貧困や居場所に取り組む人と行政が結びついていない。○
- ・「貧困」という言葉を使うべきか？○
- ・「貧困」を子ども自身が気にしている。○

- ・貧困の連鎖を断つ。◎
- ・貧困対策元年（H27年）
- ・未来へつなぐ足立プロジェクト

貧困の連鎖を断つための取り組み

【若い世代を惹きつける】

- ・担税力のある若者を転入させる。◎
- ・区外から転入してきた子育て世代が多い。
- ・保育料が安いと若い世代が集まる。
- ・西新井は子育てしやすいまち（4位）

■論点

周辺自治体と比べて、若い世代をいかに惹きつけるか？

【幼児教育】

- ・幼児教育の行政評価が低い。

【大人との交流】

- ・体験学習の行政評価が低い。大人と交流する機会が必要。◎

【待機児童対策】

- ・3歳児、4歳児プログラムまで広げてほしい。✕
- ・待機児童対策が後追いでは困る。
- ・保育士の確保が課題。
- ・車で子供を迎えてバスで登園する。（待機児童）

【障がい児】

- ・発達障がいへの支援が不足している。◎
- ・人材が不足している。◎

【親への教育】

- ・親による虐待が多い。親の代からの心の教育が必要

【環境づくり】

- ・ものづくりを見て育つまち。◎
- ・緑や土に触れられる環境づくり。◎

■論点

子どもたちがどのように育まれるべきか？

教育・保育における様々な課題への対応

【学校・保育の質と量】

- ・学力や保育は質の問題が課題。（保育の質の向上については◎）
- ・ニーズに合った保育を整えていくべき。◎
- ・公立・民間保育園の役割分担も必要。◎
- ・保育の内容は地域性も必要。◎
- ・学生が学習ボランティアとして活動している。◎
- ・学校は三学期制が良いという意見もある。△
- ・今後保育ニーズはさらに多様化するだろう。
- ・前回の構想には厳しい意見が書かれている。
- ・教育環境は良くなっているが満足しているか？
- ・足立＝学力が低いイメージ
- ・5大学の誘致は大きな成果だった。

【連携】

- ・地域に開かれた学校づくり。◎
- ・教育に福祉が入りこめない。◎
- ・庁内連携横断的な取り組みが必要。◎
- ・さまざまな人が教育を支える。
- ・子はまちの宝。
- ・みんなで子供を育てる。
- ・学校に余剰空間をつくり交流を生む。

子どもや教育に関わる様々な主体

■論点

子どもを育む・支える側のあり方とは？

■論点

基本構想で「貧困」を使っても良いかどうか？